

地元郷土史研究家に対しての発表報告

—地方での防災活動への試みのひとつとして—

土 井 修 二* (一般社団法人 日本気象予報士会)

<はじめに>

筆者が地元郷土史研究家の集まりに会員として参加、二度の発表を行った事例について、地域防災および気象知識伝達の見地から、報告いたしたく思います。

<郷土史研究家の集まり について>

全国各地津々浦々にあります。

京都 丹波地方の集まりでは、元教職につかっていた方を中心に、地域の歴史 風習 遺跡等について興味を持つ人々が集い、定期的に勉強会を開催し、活発なところは会誌も発行しています。

<私が入会して発表に至るまで>

以前より、郷土史研究家の同好会組織があり会誌も発行されているのは知っていましたが、私の気象的観点での歴史研究と関連がないと思い、無関心でした。

しかし、東日本大震災をきっかけに、過去の災害が注目されるようになり、会誌に「丹波地方の災害」についての記事が載ったことから、これは私とよく似た考えで行われていると思い、会合に参加させてもらい、2013年春 正式入会と相成りました。会員数は現在46人 ほぼ毎月定例会が催され 参加人数は15～20人 年齢層は8割方60歳以上です。

私は現在二年目で、発表回数二回、高齢者の学習意欲に感心しながら活動しています。

・<一回目の発表>

2013 9 29 参加者16名

タイトル「丹波地方の台風災害について」

—1950～1965—

1950年から1965年の丹波地方の台風災害について、天気図や雨量データなどを示して、気象的な観点から説明。直前にやってきた「特別警報 台風 18号」の話題を交えながら発表した。

台風についてのクイズも交え、参加者も楽しめるようにと試みた。

<二回目の発表>

2014 12 21 参加者 18名

・タイトル「戦中戦後の台風」

1940～1949年の台風について

前回の発表に引き続き、丹波地方の台風災害そして戦時中の天気図 雨量データ等も紹介

当初予定では、今年の台風災害も同時に紹介し防災知識の植え付けも狙ったコンテンツだったのだが、都合により短縮にしたため 防災知識周知は不十分になったことが 残念でした

戦中戦後の台風について

天気図 雨量データからの検証
(1940年-1949年)

コンテンツ タイトルスライド

<参加者の反響など>

第一回の時は、興味深く聞いてもらった方もあったが、私が入会直後だったこともあり、少し注意が散漫になった時があった。

興味を持つ方が、しっかり質問してくれたので、本音も交え 丁寧に説明した。

特別警報の台風直後であり、災害に関心は高く、台風のクイズは楽しまれていた。

会組織の発表内容が、以前は古文書解析や、歴史遺跡の調査等限られていたが、よりいろんな分野での発表を促すきっかけとなった。

第二回の時は

事例が参加者の青春時代、子供時代のころということ、私が少し皆様になじんできたことなどから前回より熱心に聞いていただけた。

短縮版になったことで、防災知識の付与については、不十分な結果に終わったが、口頭などで今年の台風についても少し伝え、できるだけ説明するように試みた。

配布資料について、パワーポイント資料を六枚印刷にしたところ、見にくいと苦情があった。

第二回目は改善を図ったが、枚数が多くなるなど問題もあり、より図を大きく、枚数を少なくする必要性を痛感した。

終了後の懇親会で、昔の話題が出たり、親しく話すことができたので、親睦を図ることも大切だと思った。

<今後の課題など>

この事例は、学習意欲が高い方が相手だったので、一般の方でも同じように興味を持ってくれるか未知数である。

資料については、まだまだ高齢者向け配慮が必要だと思われる。

もっと経験を積んで、より良いプレゼンができるように改善していく必要がある。

<まとめ>

気象災害は局地的に起こることが多く、地域特性を知る者が、気象知識を生かして過去災害を検証適切にレクチャーすれば、有効な防災対策になる場合があると思っている。

今後も、このような発表を通じて、地域防災に寄与できればと考えている。

<雑感>

高齢の方との交流を通じて、現在世代間の情報交換が大変希薄になっていることを痛感した。

そして、いくつになっても、熱心に自分の分野の調査、研究に没頭されている参加者の熱意に、脱帽。

若手の方も、これは見習わなければならない大切なことであると感じた。